

「3.11 複合災害と日本の課題」

日時：2014年3月11日(火) 10時～17時30分

会場：中央大学多摩キャンパス 2号館4階 研究所会議室4

申し込み不要

シンポジウムの概要

2011年3月11日に発生した巨大地震は、巨大津波・深刻な原発事故・広範な風評被害を伴った複合災害であった。発生直後は日本内外で大きな関心をよび、多くのボランティアが被災地に赴き、メディアも多くの紙面を割いて報道したが次第に関心が薄れてきている。本シンポジウムでは研究会の成果と現地調査に基づいてこの複合災害を多面的に検討し、今後、発生が予想される首都直下型地震や東南海トラフを震源とする巨大地震・津波への対応について議論を喚起したい。

Session1 被災地 — 現状報告分析

司会者 佐藤 元英 討論者 長谷川 聰哲

片桐 正俊 中央大学
経済学部教授

「震災復興財政の問題点と課題」

武山 眞行 中央大学
名誉教授

「大震災被災者に対する法律援助システム」

深町 英夫 中央大学
経済学部教授

「日本心象—中国人の表象・記憶する3.11」



M. Katagiri



M. Takeyama



H. Fukamachi

Session2 被災地 — 電力・エネルギー・原発問題

司会・討論者 細野 助博 中央大学総合政策学部教授
討論者 滝田 賢治

長谷川 聰哲 中央大学
経済学部教授

「東日本大震災が地域と国民経済に与えた影響」

岡田 啓 東京都市大学
環境学部准教授

「日本のエネルギー政策と電力改革」

川久保 文紀 中央学院大学
法学部准教授

「福島第一原発事故と被災自治体
—福島県相双地方の事例」

奥山 修平 中央大学
法学部教授

「震災・原発事故のエネルギー政策」



T. Hasegawa



S. Hosono



F. Kawakubo



A. Okada



S. Okuyama

Session3 過去から未来へ

司会者 武山 眞行 討論者 奥山 修平

佐藤 元英 中央大学
文学部教授

「日本の大震災と外交—過去の記録からの提言」

西海 眞樹 中央大学
法学部教授

「自然災害と国際法」

滝田 賢治 中央大学
法学部教授

「3.11 複合災害と国際緊急援助」



M. Sato



M. Nishiumi



K. Takita